

『円山川のあるべき姿を求めて』 概要版

「円山川のあるべき姿」は円山川流域委員会（会長 藤田裕一郎 岐阜大学教授）の約 4 年に及ぶ活動の成果としてとりまとめたもので、以下の内容から構成されている。

1. 円山川流域委員会について
2. 円山川の現状と課題
3. 円山川のあるべき姿とその実現を目指して
4. 円山川の河川整備に関する意見と提言
5. 河川整備計画策定時の住民意見反映のあり方
6. まとめ

各項目の概要は以下のとおりである。

1. 円山川流域委員会について

円山川流域委員会の目的や開催の概要を示した。

2. 円山川の現状と課題

2.1 において、現地視察や河川管理者からの資料提供と説明及び各委員からの情報提供によって得られた内容に基づいて円山川の現状を示した。それらの情報をもとに流域委員会では治水、利水、環境における様々な事項について議論を行ったが、議論を進めるなかでは、治水のハード的な対策と自然環境の保護・保全のように相反する意見や対立する意見もあった。この章の 2.2 では、これらの相反し、対立する意見や矛盾する意見も含めて、流域委員会で議論し、述べられた様々な意見を整理し、円山川の課題としてとりまとめた。

2.1 円山川の現状把握

円山川の現状を次の 5 項目によりとりまとめた。

(1) 流域と河川の概要（自然的・社会的側面）

ここでは流域及び河川の概要として、地形や人口などの整理を行うとともに、山間部の形状や主要洪水についてもとりまとめている。

(2) 直轄管理区間の治水

ここでは円山川の明治から昭和における改修計画と事業の経緯を要約して示している。

(3) 人の営みと円山川

ここでは円山川の利水の状況及び利用の状況についてとりまとめている。

(4) 円山川の景観

(5) 円山川の自然環境

2.2 流域委員会で議論した主な議題

流域委員会で議論された内容を大きく 4 つの項目に分類した。

(1) 治水対策と自然環境

(2) 流域全体としての治水

(3) ソフト対策

(4) 日頃の円山川との接し方

3. 円山川のあるべき姿とその実現を目指して

2章にまとめた円山川の現状や委員会で議論した課題や述べられた意見の内容から導かれた円山川のあるべき姿を示したものであり、その中では、円山川のあるべき姿を実現するための川づくりの基本的な考え方についても述べている。

円山川流域委員会では、今後河川管理者が円山川の整備を行ううえでの道標となるものとして、以下のように円山川のあるべき姿をとりまとめた。

- ・住民が安全に、安心して暮らせる円山川
- ・流域が一体となって、川の文化・情報を交流する円山川
- ・地域になじみ、人々に自然の恵みと安らぎを与える円山川
- ・美しい景観と豊かな自然が残る円山川
- ・コウノトリが舞う円山川

このため、円山川の整備は以下に示す基本的な考え方に従って行うこととしている。

- (1) 水害に強い地域づくり
- (2) 流域一貫とした計画
- (3) 地域になじんだ川づくり
- (4) 景観や豊かな自然環境の保全・再生・創出（生物多様性円山川戦略の策定に向けて）
- (5) 円山川らしさへの配慮

4. 円山川の河川整備に関する意見と提言

河川の整備に関して各委員から出された様々な意見を、円山川のあるべき姿の実現に向けた「川づくりの基本的な考え方」に基づいて項目毎に整理した。平成16年10月に発生した台風23号による災害を契機に復旧事業として計画された円山川緊急治水対策の内容についても言及している。

4.1 住民が安全に、安心して暮らすために

- (1) 直轄管理区間の治水のあり方について
 - 河道掘削
 - 堤防整備
 - 内水対策
 - 構造物の改築
 - ソフト対策

- (2) 緊急治水対策
- (3) 円山川下流部における対策
- (4) 流域全体としての治水機能について

4.2 自然の恵みをおもい、次世代に引き継ぐために

- (1) 円山川の利水について
- (2) 人の営みと利用について
- (3) 円山川の景観について
- (4) 円山川の自然環境について

5. 河川整備計画策定時の住民意見反映のあり方

河川整備計画策定時における関係住民意見の反映のあり方についての委員の意見を整理している。すなわち、意見を聴く関係住民の範囲や意見を聴取する方法、周知・広報の方法、住民意見の反映において各委員が重要と考えている内容を取りまとめて示している。

6. まとめ

河川整備計画の策定に向けたおもいや経緯について、また各章の概要について示している。